



北陽中学校の校内研究を紹介します！



今号では、「校内研究」について紹介します。北陽中では、**学美(まなび)**をキーワードに、若手教員からベテラン教員までが、教科を越えて一丸となって研究を進めています。

学美(まなび)について

学力向上

学美

授 生 徒 業

①

②

生徒 共感性・規律性のある振舞い

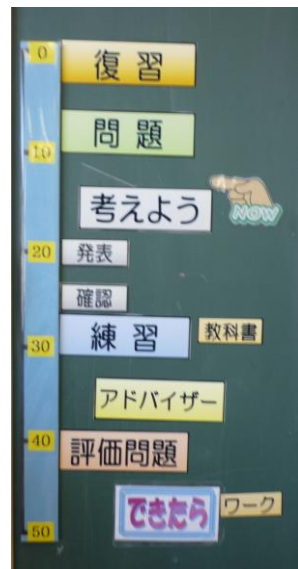
教師 専門性の高い教材研究

生徒と教師がともに果たすべき役割を自覚し、両者が共に創り上げる学びを「学美」(まなび)としています。

- ① 共感と規律を有した学習集団であること。
- ② 専門性の高い教材研究を行い、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、知的好奇心を揺さぶること。

北陽中では左の図のように、上記の2点が授業の中で有効に働いたとき、学力向上に結びつくと考えています。

研究主題(令和2年度から2か年計画)
「学美」における「見方・考え方」を鍛えるにはどうすればよいか



「全ての教科で・みんなで・同じ方向性で」

50分ものさし

① 50分ものさし(全教科、全教室、全教員で活用)

- ・教師→1単位時間の効果的なコーディネートができる。
- ・生徒→見通しがもてる。(※時間設定を考えることもある。)

② 生徒の思いや疑問を生かした学習課題や発問の精査

- ・学習課題や発問について教科の枠を越えて、情報交換する。

全員参加の事前指導案検討会・研究会

全教員が、経験年数に応じて3つに分かれ、それぞれの役割を明確にして協議を行っています。

若手教員(5人)

他に隙を与えず、疑問や難問、思いを投げかける。

中堅教員(7人)

若手教員の思いに共感、又は批判する。(深い学びのきっかけづくり)

ベテラン教員(6人)

全員の思いを受け止め、根拠(学習指導要領解説など)をもって応える。全員の学美のために、愛と鞭の批判もする。

今号の通信の内容は、北陽中学校の研究主任が作成する研究通信(研究部報)から、抜粋して紹介しています。右のQRコードを読み取ってご覧ください。



削除しています

注意！
ご覧になるためにはGoogleのアカウントが必要です。

萩原指導教諭のつぶやき



えっ？生徒も一緒に授業参観！？ ～「学美ツアー」～

北陽中では、教師が空いている時間に授業参観を行う「学美ツアー」を行っています。昨年度は2年生が社会の時間に、1年生の社会を参観するというように、生徒が他学年の授業の様子を見る取組もなされています。(授業の全てではなく、10～15分程度くらいだそうです。)

教師や生徒が、学習課題を生徒主体でどのように設定すればよいかを学んだり、話合いのよりよい進め方を学んだりして、「学美」の実現に向けて、がんばっています。



昨年度の学美ツアーの様子

